

誇らしげに咲いたトチの花



接ぎ木でトチノキを量産 特産品づくりを目指して

5月に入り、日高地域の蘇武岳では、トチノキが次々と花を咲かせています。

今回は、このトチノキに接ぎ木をして、早期に花を咲かせることに成功した一人の男性を紹介します。

百合 国夫 さん(76歳)豊岡市日高町羽尻在住



林業経験を活かしてトチノキの栽培に取り組む百合さん。阿瀬深谷観光協会会長も務め、地域の観光にも貢献している。趣味は長年続けてきた尺八で、知人と音楽を楽しむこと

蘇武岳の休耕田で トチノキを栽培

日高地域でトチノキの栽培に取り組んでいる百合国夫さんは、蘇武岳に自生する樹齢100年以上のトチノキを母樹として、接ぎ木で苗木を育てています。栽培には、この蘇武岳につながる山の斜面にある休耕田を利用してあります。トチノキは北海道から九州に分布する落葉高木です。主に溪流沿いの山地に自生し、300〜400年の樹齢ともなれば高さ約30メートル、幹周り約4〜5メートルの巨木に育ちます。

栃もちなどにして実を食べる習慣がある但馬地方には、トチノキは身近な存在ですが、

成木までには長い年月がかかります。花や実を付けるまでの期間を短縮させる接ぎ木の成功率は低く、栽培は不可能とされてきました。

「森の名手・名人 100人」に選定

16年前、百合さんは自宅南側の山でトチノキの接ぎ木を始めました。最初は20本のうち2本の成功だったものの、接ぎ木に使うナイフを丹念によく研ぎ、細胞が乾く前にすばやく接ぐ技術で年々成功率を高めてきました。現在では、平均75パーセント成功し、百合さんが所有する1.5ヘクタールの土地には、計150本のトチノキが、毎年春に誇らしげに花を咲かせています。

この技術が評価され、平成18年には「森の名手・名人100人」の一人に選ばれました。

新手法「環状はく皮」で 栽培期間を大幅短縮

トチノキは通常、実を付けるまでに30〜40年かかるといわれています。

百合さんは、実を付けるまでの期間を短縮するため、接ぎ木をして十数年たったトチノキの幹の皮を、5センチメートルほどの幅で環状にはくぐ「環状はく皮」という手法を見つけ出しました。すると、その翌年、一気に花が咲き、実も全体で約3キログラムほど収穫することができました。百合さんは「木の状態をよく観察すると成長具合が手に取るように分かります」と十分な手応えを感じています。環状はく皮によって皮をはがれた木は、自身を守ろうとして細胞を活性化させ、結果として、花を咲かせ、実を付けます。このため、約15年ほどで実を付けるようになりまし

た。しかし、木を痛める手法のため、失敗す



日々の変化を見逃さないようトチノキの様子をみる百合さん

ば木を枯らすことになり。一度花が咲き実を付ければ、習慣になり毎年花を付けるようになりますが、樹勢が強くなると花が咲かない木もあります。このため、剪定するなどして、毎年花を咲かせるような研究もしています。

関係者からも期待 目標はトチ園

今後は、苗木を増やし、休耕田などに植樹することによって、将来、実の収穫を増やして栃もちなどの特産品づくりに役立つと関係者からも期待されています。

「後世に残るようなトチ園をつくることができたいですね。十数年後には、トチ園一面を覆いつくすほどのトチノキが育つように、これからも頑張ります」と百合さん。日々、木と会話をしながら成長を見届けています。

明るく清くたたく

五荘小学校 (豊岡)

案内者 富山 周作くん



五荘小学校は、豊岡地域のほぼ中心地に位置しています。校区内は、市街地とのどかな田園風景が広がり、この調和のとれた環境の中、現在758人の児童が通っています。五荘小学校の児童会長を務める富山周作くんは、6歳から始めた習字が特技です。また、野球部に所属し、ポジションはキャッチャーです。体を動かすことが大好きで、将来はプロ野球選手になるという夢を描く富山くんは、五荘小学校を紹介してもらいました。



五荘小学校

僕が一番好きな行事は、9月に行う運動会です。中でも一番好きな種目は、紅白対抗リレーです。1年生から6年生までがチームを組んでトラックを走ります。みんなと一緒に競走できることが楽しいです。そして、ゴール前のデッドヒートがとても盛り上がりがあります。次に好きな種目は、組体操です。友達と協力してつくり上げる組体操を、いつも楽しみにしています。みんなよい組体操を見てもらおうと、昨年もがんばって練習しました。また、2月に行う「安全ありがとう集会」も楽しみみの行事です。この集会は、僕たちの安全を守るうと、登下校の時間に立ち番をしていただいている地域の方々をお招きして、交流会をするものです。当日は、児童会で考えた安

全に関するクイズを一緒に楽しみます。そしてクイズの後は、みんなで歌をうたって楽しい思い出をつくりたい。五荘小学校の特徴として、校庭には「太陽の丘」というミニアスレチックがあります。山の斜面を利用して作られた「ジャンボ滑り台」や「ロング滑り台」では、休み時間になるとたくさんの方が遊んでいます。この太陽の丘で僕たちは元気に体を動かしています。



日ごろの活動に感謝の気持ちを込めて行う「安全ありがとう集会」

五荘小学校では、地域とのつながりを大切にしながら、みんなで楽しく過ごせるような活動の時間をたくさんつくっています。

笑顔の輪

子どもたちと一緒に楽しい時間を

「ままだっこ」(但東)

但東の「ままだっこ」は、子どもたちに楽しんでもらえる場をつくるうと、さまざまな活動を続けているグループです。平成17年8月に発足し、会員には、現在、子育て中のお母さん10人が所属しています。

と、子どものような笑顔で話します。その言葉からも、グループ活動の楽しさが伝わってきます。

グループの発足から間もなく2年。これまでは、道具づくりや体制づくりなどの下準備を進めてきました。活動の本格始動は今年からで、6月以降のスケジュールも増えています。

代表の高松龍子さん(但東町中山)は、「子どもたちの喜ぶ顔と輝く目を見たくてこの活動を始めました」と発足当時は振り返ります。

メンバーは「こんな素人の集団でも、活動が続けていけばたくさんの子どもたちを笑顔にできる」と信じ、次の出番を待っています。

主な活動は、町内の保育園や幼稚園に向いて人形劇やペープサートをすることです。会場で使う道具は、すべて手づくりで、手づくりの温もりと演技の素人っぽさが子どもたちに安心感を与え、子どもたちの心をつかんでいます。

メンバーの福田晶子さん(但東町出合)は、「子どもは正直だから、本当に楽しくないと笑ってもらえないので、いつも一生懸命になれます」



人形劇の練習に取り組む「ままだっこ」のメンバー